

ボーダレス連携によるヘルスケアDXの推進：

まとめと提言

2026年3月16日

アクセシビリティ研究会主査

山田 肇

調査研究チーム

- テーマ：高品質なヘルスケアデータとエコシステムの構築に関する調査研究
 - 山田 肇 東洋大学名誉教授
 - 川添高志 ケアプロ株式会社代表取締役社長
 - 榊原直樹 清泉大学 人文社会科学部 文化芸術学科准教授
 - 下野僚子 早稲田大学理工学術院 大学院創造理工学研究科准教授
- 関根千佳 株式会社ユーディット会長
- 千田一嘉 金城学院大学薬学部教授
- 中島美津子 東京医療保健大学 東が丘看護学部看護学科 / 大学院看護学研究科教授
- 藤方景子 認定NPO法人湘南ふじさわシニアネット
- 遊間和子 国際社会経済研究所 経済安全保障・デジタル社会研究部 主幹研究員

報告書の構成1

- **ヘルスケア分野の政策動向：**

EHDSを含む動向の解説

- **分野的なボーダレス**

1. 乳幼児期からの健康診断記録のPHRへの統合：台湾の統合力、イギリスの戦略、オランダの市場規律、スウェーデンの透明性に見習うべき
2. 子ども家庭センターの設置：医療系、福祉系、教育系の統合は、既存制度の下での組織と業務の壁を打ち破る施策が求められる

- **地理的なボーダレス**

1. オンライン診療ネットワークも含むヘルスケアDX：患者個々に最適の医療を提供するヘルスケアDXは、全体像を描いて推進する必要がある
2. かかりつけ薬局を地域医療のハブに：多職種協働の医療・ケアチームをDXで統合し、薬剤師は専門性を発揮して地域医療を支える仕組み
3. 新さっぽろの医療を軸とした新しい街づくり

報告書の構成2

• 官民間のボーダレス

1. 救急医療のリエンジニアリング：
救急医療は、個別組織の改善に加え、サービス全体の流れを踏まえた運営の見直しが重要
2. 人を中心に据えたスマートシティサービスの提供
3. 公民連携の公民共創への昇華：
一層民間側に主導権を与える方向への発展

• ヘルスケアサービス受益者への説明と信頼の醸成

1. 精神科訪問看護サービスの説明責任と信頼の構築：
時間をかけて信頼を醸成していく仕組みと、契約により法的な問題を抑制する仕組みの両立
2. インフォームド・コンセントから、協働意思決定、支援付き意思決定への転換
3. 医療機関の情報セキュリティ

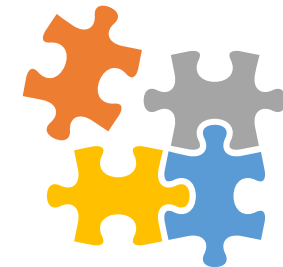
報告書の構成3

• ヘルスケアDXの横断的課題

1. 国民の健康リテラシーの向上：
他国に劣る日本人の健康リテラシーの向上施策が必要不可欠
2. オンライン診療でのアクセシビリティ：場所（Affordability）と人（Literacy）への対応強化を

• 先進的な取り組み事例

1. 札幌市スマートシティ構想
2. 札幌市官民共創窓口
3. 渋谷区子育てネウボラ
4. 救急医療DX（TXP Medical）
5. デジタルクローンによる説明業務支援サービス「DICTOR」（TOPPAN）
6. ロボットとの共生とウェルビーイング向上（産業技術総合研究所）

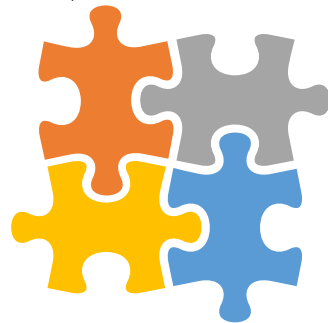


提言1

- ボーダレス連携には法律、業務、組織の壁を越える必要。しかし、それぞれには長い歴史があり、歴史の中で最適化（部分最適化）が図られてきた
 - 部分最適化してきた業務や組織に「連携しよう」と声をかけるだけでは、連携は進まない
 - ジクソーパズルにも試行錯誤が必要で、ボーダレス連携にはそれ以上の努力が求められる
1. 互いの専門領域が混ざり合う学際的なコミュニケーションが重要
 - 異なる組織に属していた構成員の間での相互理解
 - 用語の標準化
 2. 部分最適化された組織のトップの意識変革も大切
 - 法律的な手当て
 - 専門職の人手不足などの外部要因
 - 外にいる専門家からのきっかけ

提言2

1. その先で、部分的なシステム間での相互接続性、相互運用性の確立などを進めるのが重要
 - 関係者間での相互理解の促進はすべてのケースで前提
2. 努力を重ねてジクソーパズルの二つのピースの凸部と凹部の形状が完全に一致すれば、連携は実現



1. 「継ぎ目合わせ」は早ければ早いほど容易：部分最適化すればするほど、ハードルは高くなる
2. 細部の連携調整にはデジタル技術が追い風：デジタル技術を利用して、データを基に連携を
3. ボードレス連携の評価指標：デジタルデータから得られるエビデンスを活用
4. 移行に関わる時間と費用への理解：時間と費用への投資について人々の理解を促進し、協力を得る